

**主 題：最も小さな働きにも忠実であったろうか**  
**聖書箇所：マタイの福音書 25章14-30節**

今年最後の礼拝でこのように皆さんとごいっしょにみことばを学べる喜びを心から感謝いたします。今日を入れて後三日で2013年が終わります。この一年間、日本中で世界中で様々なことがありました。恐らく、皆さんお一人おひとりに様々なことがあったことでしょう。その私たちすべてに確実なことが一つあります。それはキリストが再び来られるということです、その日は確実に近くなっています。昨日よりも今日、確実にキリストが再び来られることが近くなっています。

**1. 序**

**1) マタイ24-25章**

今日学ぼうとしているマタイの福音書25章と、その前の24章はこのキリストの再臨について言及されている箇所です。

**a) 再臨がいつあるのかだれも知らない 24:36**

24:36にはこのように書かれています。「ただし、その日、その時がいつであるかは、だれも知りません。天の御使いたちも子も知りません。ただ父だけが知っておられます。」。私たちは主が再び来られるその日がいづであるのかだれも知らないのです。しかし、確実に来られるのです。

**b) 常に主にお会いする準備をしていなければならない 24:42**

ですから、同じ24:42には「だから、目をさましていなさい。あなたがたは、自分の主がいつ来られるか、知らないからです。」とあります。私たちは常にいつも主にお会いする準備をしていなければいけません。だから「目をさましていなさい」とみことばは言うのです、眠っていても主が来られても私たちは分からないからです。私たちは日頃から常に主の命令に従う忠実な歩みをして、主が来られることに備えていなければならないのです。

**c) 再臨にどのように備えるべきか 24:45-51**

24章の最後には、二人のしもべのことが書かれています。二人のしもべは主が来られるその時までの備えが違うものでした。

**・ 忠実な思慮深いしもべ 24:45-47**

このしもべの行ないは従順でした。主が命じられた通りに生きました。そのように行なったのです。そして、その結果は、主が大いに祝福されました。それは24:47に「まことに、あなたがたに告げます。その主人は彼に自分の全財産を任せようになります。」と記されている通りです。マタイ13:43にはこのように書かれています。「そのとき、正しい者たちは、彼らの父の御国で太陽のように輝きます。耳のある者は聞きなさい。正しい者たちは、天の父の御国で太陽のように輝きます。」と。

**・ 悪いしもべ 24:48-51**

彼の行ないは不従順でした。主の命令に聞き従わなかった。彼は生き方が変えられていなかったのです。だから、その結果は51節に「そして、彼をきびしく罰して、その報いを偽善者たちと同じにするに違いありません。しもべはそこで泣いて歯ぎしりするのです。」と記されています。偽善者たちと同じ報いを受けると、みことばははっきりと教えています。そして、彼は泣いて歯ぎしりすると言います。この「偽善者」ということばのギリシャ語はヒュポクリテースで、「様々な役を演じる俳優」を指すことばです。様々な役を演じるので様々な仮面をかぶります。その意味するところは「心の伴っていない外面的な行ないだけのもの」です。マタイ23章では、この「偽善者」について八カ所に亘って記されています。13、14、15、16、23、25、27、29節で「忌わしいものだ。偽善の律法学者、パリサイ人たち」と全く同じことばで、マタイは偽善者たちのことを記しています。そして、この「偽善者」たちの結果も記されています。23:33「おまえたち蛇ども、まむしのすえども。おまえたちは、ゲヘナの刑罰をどうしてのがれることができよう。」「ゲヘナの刑罰を逃れることはできない」と教えるのです。

24章の後半に出て来る二人のしもべ、「忠実な思慮深いしもべ」と「悪いしもべ」はどちらも主人に仕える者です。だから、しもべです。しかし、このしもべにとって一番の問題は、そのしもべの生き方がどうであったのか、主人に対して忠誠心をもって仕えたかどうかということです。

**2. 各人には託された務め(働き)がある 25:14-15**

今日ともに学ぼうとしている25章14節からはそのことについて言及されているのですが、25章の1節も14節も同じ書き出しです。「天の御国は○○のようです。」と。たとえによって話されてい

ます。それは「天の御国に住む者とはこのような者です。」と教えるのです。違うことばで言うなら、キリストが再臨された時、各人にどのような報いが与えられるかを述べているのです。

**\* 25 : 1-13 花婿を迎える十人の娘たちのたとえ**

a) 五人の賢い娘たち : 天の御国に入れる者 → 救われる

b) 五人の愚かな娘たち : 天の御国に入れない者 → 救いにもれる

その生き方が問われているのです。信仰を告白することだけでは十分ではないのです。その人の生き方が変えられていない、信仰を告白する以前の生き方をそのまま続けている、そのようなことが問題にされるのです。私たちクリスチャンはキリストの再臨に備えて、主の命令に忠実な歩みをして、主にお会いする準備をしていなければならないのです。

**\* マタイ 7 : 21-27**

「:21 わたしに向かって、『主よ、主よ』と言う者がみな天の御国に入るのではなく、天におられるわたしの父のみこころを行う者が入るのです。」、24節「だから、わたしのこれらのことばを聞いてそれを行う者はみな、岩の上に自分の家を建てた賢い人に比べることができます。」、その結果は25節に書かれています。「雨が降って洪水が押し寄せ、風が吹いてその家に打ちつけたが、それでも倒れませんでした。岩の上に建てられていたからです。」、そして、26節「また、わたしのこれらのことばを聞いてそれを行わない者はみな、砂の上に自分の家を建てた愚かな人に比べることができます。」、その結果は27節「雨が降って洪水が押し寄せ、風が吹いてその家に打ちつけると、倒れてしまいました。しかもそれはひどい倒れ方でした。」、ここでもみことばに従順な者は救われるが、みことばに従順な者は救いに至らないと言っているのです。

この24節後半の二人のしもべ、そして、25章1-13節の十人の娘たちのことを頭の中に入れて、今日の14-30節をとらえて見いきましょう。

**☆ マタイ 25 : 14-30**

14節は「天の御国は、しもべたちを呼んで、自分の財産を預け、旅に出て行く人のようです。」と書かれています。「天の御国」に関して新聖書辞典の解説を引用します。「マタイの福音書の特徴的表現で、他の福音書では「神の国」。主イエスが宣言している神の国はどこまでも具体的なものであり、神の統治、神の王権ばかりでなく、神の統治が必然的に含む民や万物の秩序、さらには、神の統治が及ぶ人生の全領域、物事的全領域において、現実となる祝福の総体なども含む豊かな内容を持つ概念であり、用語なのである。」。ここで言われている「天の御国」は確かに天国を指すのですが、この地上においても救われた者は天の御国の中にいるということが出来ます。讚美歌90番は「ここも神の御国なれば」と歌い始めます。14節から、主人はしもべたちを呼んで自分の財産を預けたと書かれています。

**・ 預けた 14節**

「信頼して託した」ということです。主人は自分の財産を託したのです。私たちはみな、主人からの財産を託されているのです。私たちひとり一人は主からの務めを託されているのです。

**・ 能力に応じて 15節**

そして、15節には「彼は、おのおのその能力に応じて、…」と書かれています。「…ひとりには五タラント、ひとりには二タラント、もうひとりには一タラントを渡し、それから旅に出かけた。」と続きます。この「タラント」はギリシャ語のタラントンで、英語の「タレント」＝才能・能力の語源となることばです。聖書の欄外注には、1タラントは6000デナリと書かれています。1デナリは当時の労働者の一日分の賃金でしたから、6000日分の賃金に相当します。

このタラントは主人から託された主人の財産です。私たちも自分の所有するすべてのものは主から預かったものです。主から託されたものです。だから、私たちはそれらを大切な主の財産として、主の賜物として受けなければいけません。それは家族であり、財産、仕事、個人的な能力、経験、社会的地位かもしれません。しかし、これらは主から託されたものです。

「おのおのその能力に応じて」と書かれています。一見、それは何か差別があるように思いますが、ここでは能力の差を意味していません。それは主の財産の最も良い管理と運用のために、最適と見做される割合で、神によって分配されていることを意味するのです。なぜなら、

- ・ 神はみこころを為す方であり
- ・ 神は公正な方であり、
- ・ 神は私たちのすべてをご存じの方です。

だから、主は「おのおのその能力に応じて」一人ひとりに自分の財産を託されたということなのです。

**3. 良いしもべと悪いしもべ 25 : 16-30**

問題は主の財産を託されたしもべたちです。25章16節から30節には二種類のしもべについて書かれています。一つは「良いしもべ」、もう一つは「悪いしもべ」です。

## 1) 良い忠実なしもべ 25 : 16-17, 20-23

### a) 5タラント預かった者

16節「五タラント預かった者は、すぐに行って、それで商売をして、さらに五タラントもうけた。」、ここに「すぐに」、そして、「さらに」とあります。その意味するところは主に対する従順さです。預かって「すぐに」、そして、「さらに」と、これは主への従順さを現わすものです。20節では、このしもべが自分のした商売の結果を報告したことが記されています。「すると、5タラント預かった者が来て、もう5タラント差し出して言った。「ご主人さま。私に5タラント預けてくださいましたが、ご覧ください。私はさらに5タラントもうけました。」、主人は彼にこのように言っています。21節「よくやった。良い忠実なしもべだ。あなたは、わずかな物に忠実だったから、私はあなたにたくさんの物を任せよう。主人の喜びをともに喜んでくれ。」と。「忠実なしもべ」と言われました。「信用できる」という意味です。彼はこの5タラントの大きさのゆえに忠実であった訳ではありません。彼はただ主人から託された物をいかに正しく忠実にそれを管理、運用するかを考えて行なったのです。そのことを「忠実だ」と主人は言われたのです。この5タラント預かったしもべは、主から託された物を正しく忠実に管理、運用したのです。

### b) 2タラント預かった者

彼もさらに2タラントもうけました。17節に「さらに」と書かれています。そして、その結果を報告します。22節「二タラントの者も来て言った。『ご主人さま。私は二タラント預かりましたが、ご覧ください。さらに二タラントもうけました。』、そして、23節「その主人は彼に言った。「よくやった。良い忠実なしもべだ。あなたは、わずかな物に忠実だったから、わたしはあなたにたくさんの物を任せよう。主人の喜びをともに喜んでくれ。」、2タラント預かったしもべに対する主人のことばは、5タラント預かったしもべへのことばと全く同じです。しもべの忠実な務め、その働きは預かった額の大きさではなく、その働き大きさでもなく、託された物をいかに忠実に管理、運用したのかということです。それをいかに忠実に為したかによって、主はお誉めのことばを彼らにかけたのです。

## 2) 悪い怠け者のしもべ 25 : 18, 24-30

### a) 預かったものを隠した

彼は主人から預かった1タラントをどうしたでしょう？18節に「預かった物を隠した」と書かれています。主人から託された物を正しく忠実に管理、運用しなかったことです。

### b) 主人を信頼していなかった

また、24, 25節では、彼は主人を信用していなかったことが書かれています。「ところが、一タラント預かっていた者も来て、言った。『ご主人さま。あなたは、蒔かない所から刈り取り、散らさない所から集めるひどい方だとわかっていました。:25 私はこわくなり、出て行って、あなたの一タラントを地の中に隠しておきました。さあどうぞ、これがあなたの物です。』彼の態度は主人の命令に不服従だったのです。1タラント預かったこのしもべは、主人を全く信用していなかったのです。

### \*本当の信仰はその人の生き方を変えます

本当の信仰はその人の生き方が変えられるのです。

### a) マタイ7 : 17-20

良い木か悪い木かはその実によって見分けることができると教えています。

### b) ヤコブ2 : 14-26

ヤコブはヤコブ書の2章でこのように教えています。2 : 14「私の兄弟たち。だれかが自分には信仰があると言っても、その人に行いがなければ、何の役に立ちましょう。」、17節「それと同じように、信仰も、もし行いがなかったなら、それだけでは、死んだものです。」、26節「たましいを離れたからだが、死んだものであるのと同様に、行いのない信仰は、死んでいるのです。」、本当に救われた者、本当の信仰を頂いた者には従順な行ないが伴うとヤコブははっきりと教えています。行ないのない者の信仰は「死んでいる」とヤコブは教えています。

皆さん、マタイ25章14-30節には二種類のしもべものことが書かれていました。そして、このしもべたちに「精算の時」が来るとみことばは教えています。

## 4. 精算するときがくる 25 : 19

19節「さて、よほどたってから、しもべたちの主人が帰って来て、彼らと清算をした。」。「精算」とは、国語辞典では「貸し借りを計算して片をつけること、過去の関係に始末をつけること」と説明がされています。この二種類のしもべには精算する時が確実にやって来ます。そして、その時がやって来しました。それは何を意味するのか？「救われる者」と「救われない者」とが分けられるということです。ローマ人への手紙2 : 6でパウロはこのように言っています。「神は、ひとりひとりに、その人の行いに従って報いをお与えになります。」と。また、ヨハネはこのように言っています。黙示録22 : 12「見よ。わたし

はすぐに来る。わたしはそれぞれのしわざに応じて報いるために、わたしの報いを携えて来る。」と。良い忠実なしもべに与えられる報いと悪い怠け者のしもべに与えられる報いは違うのです。

1) 良いしもべに与えられる報い → 救いに至る

a) たくさん物を任せよう 25:21、23

主からよりたくさんものを任せられます。

b) 主人からの賞賛がある

「主人の喜びをともに喜んでくれ」と言われました。パウロはローマ2:7で「忍耐をもって善を行い、栄光と誉れと不滅のものを求める者には、永遠のいのちを与え、」と「救いのこと」を言っています。

2) 悪い怠け者のしもべに与えられる報い → 滅びに至る

a) 持っている物をみな取り上げられる 29節

29節「だれでも持っている者は、与えられて豊かになり、持たない者は、持っているものまでも取り上げられるのです。」

b) 主人からの賞賛がない 26節

26節『悪いなまけ者のしもべだ。私が蒔かない所から刈り取り、散らさない所から集めることを知っていたというのか。』

c) 外の暗闇に追い出される 30節

30節「役に立たぬしもべは、外の暗やみに追い出さない。そこで泣いて歯ざしりするのです。」

パウロはローマ2:8で「党派心を持ち、真理に従わないで不義に従う者には、怒りと憤りを下されるのです。」。パウロは前の7節で救いのことを言いましたが、この8節では滅びについて言及しているのです。6節で「神は、ひとりひとりに、その人の行いに従って報いをお与えになります。」と言ひ、7節では「救いに至る」、8節では「滅びに至る」と述べています。

皆さん、不忠実な行ないをしている口先だけの信仰には、未来の祝福が無条件に保証されていないということを私たちは知るべきです。

5. 私たちに対する教え

今日、私たちはマタイの福音書25章14-30節で、二種類のしもべを見ました。私たちはここから大切な教えを見ることができます。

1) 主に対する忠実さ

ルカの福音書19:17にはこのように書かれています。「主人は彼に言った。『よくやった。良いしもべだ。あなたはほんの小さな事にも忠実だったから、十の町を支配する者になりなさい。』」と。パウロはIコリント4:1-2でこのように言っています。「こういうわけで、私たちを、キリストのしもべ、また神の奥義の管理者だと考えなさい。:2 この場合、管理者には、忠実であることが要求されます。」

2) よい管理者として仕える

Iペテロ4:10「それぞれが賜物を受けているのですから、神のさまざまな恵みの良い管理者として、その賜物を用いて、互いに仕え合いなさい。」

3) 救われた救いの目的をしっかりと知る

皆さんは救われて永遠のいのちを頂きました。すばらしいことです。天国が約束されました。それもすばらしいことです。しかし、みことばは私たちに救われた目的があるとはっきり教えています。エペソ2:10「私たちは神の作品であって、良い行いをするためにキリスト・イエスにあって造られたのです。神は、私たちが良い行いに歩むように、その良い行いをもあらかじめ備えてくださったのです。」。私たちが新しくされたのは良い行いをするためだとみことばははっきりと教えているのです。「あなたがたは、代価を払って買い取られたのです。ですから自分のからだをもって、神の栄光を現しなさい。」(Iコリント6:20)、皆さんがよくご存じのみことばです。「自分のからだをもって、神の栄光を現しなさい。」、そうです！私たちはこのために救われたのです。だから、私たちに託された働き、託され務めを忠実に、主に従って行なわなければいけないのです。

この2013年は今日含めて後三日で終わります。私たちはこの一年間、様々なものを主から頂きました。また、様々な働きを一人ひとりに託され、一人ひとりはその働きを全うされたと思います。もう一度、私たちはこの一年を終わる時に考えてみませんか？それは私たちに託された最も小さな働きにも、私たちは忠実であったろうかということです。私たちは主の前に出た時に「良い忠実なしもべだ」と言われるような者になりたいではありませんか！？それはここにいるすべての救われた者がそうあって欲しいと私は願います。

ですから、新しい2014年を迎える前に、私たちは今一度自分自身の歩みを吟味して、新しい年を喜びと感謝をもって迎えようではありませんか！